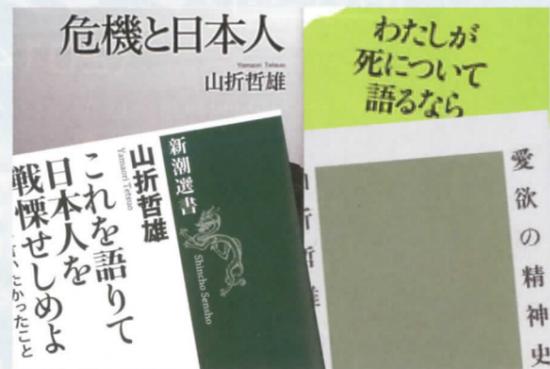


# 山折哲雄 2014年5月16日(金) 18:00~19:30

## 「震災と谷崎潤一郎」



**やまおり・てつお**◎宗教学者。1931年、米サンフランシスコ生まれ。東北大学文学部卒。国立歴史民俗博物館教授、白鳳女子短期大学学長、京都造形芸術大学大学院長、国際日本文化研究センター所長を歴任。『愛欲の精神史』により和辻哲郎文化賞を受賞。NHK放送文化賞、南方熊楠賞などを受賞。著書に『わたしが死について語るなら』『これを語りて日本人を戦慄せしめよ 柳田国男が言いたかったこと』など。仏教をベースとし、震災後はことに日本人の自然観と生き方などについて論を展開する。



# 赤坂憲雄 2014年6月6日(金) 18:00~19:30

## 「島尾敏雄、あるいは海辺の文学へ」



**あかさかのりお**◎学習院大学教授、福島県立博物館館長、遠野文化研究センター所長。1953年、東京都生まれ。東京大学文学部卒。『岡本太郎の見た日本』によりドゥマゴ文学賞と芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。河北文化賞、宮澤賢治イーハトーブ賞などを受賞。著書に『東北知の鉅脈』『3.11から考える「この国のかたち」東北学を再建する』『福島へ/福島から 福島民報(日曜論壇)2004~2013』『震災考2011.3-2014.2』など。政府の東日本大震災復興構想会議委員を務め、現在は福島県復興ビジョン検討委員会委員。



# 山形孝夫 2014年6月20日(金) 18:00~19:30

## 「〈悲しみの知〉としての物語——死者の語りの地平から」



**やまがた・たかお**◎宗教学者。1932年、宮城県仙台市生まれ。東北大学大学院博士課程中退。元宮城学院女子大学学長。『砂漠の修道院』で日本エッセイストクラブ賞受賞。他の著書に『失われた風景 日系カナダ漁民の記録から』『聖書物語』『聖母マリア崇拝の謎』『見えない宗教』の人類学』『死者と生者のラスト・サパー』『黒い海の記憶 いま、死者の語りを聞くこと』など。東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を「死者と生者が交わす歌」と読み解くなどして、執筆・講演活動を展開する。



# 小森陽一 2014年7月11日(金) 18:00~19:30

## 「死者を仲立ちとした応答——3.11後の林京子と大江健三郎」



**こもり・よういち**◎東京大学大学院教授。1953年、東京都生まれ。北海道大学大学院博士課程修了。「九条の会」事務局長。著書に『小森陽一、二ホン語に出会う』『漱石論 21世紀を生き抜くために』『文体としての物語 増補版』『仙台で夏目漱石を読む 仙台文学館セミナー講義記録』『死者の声、生者の言葉 文学で問う原発の日本』など。震災後は漱石作品を文明論的観点から読み直すほか、『死者の声、生者の言葉』では大江健三郎の『晩年様式集 イン・レイト・スタイル』を論じるなどしている。



# 東雅夫 2014年9月26日(金) 18:00~19:30

## 「震災と怪談の文学史」



**ひがし・まさお**◎アンソロジスト、文芸評論家、怪談専門誌『幽』編集長。1958年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒。評論誌『幻想文学』編集長を経て、近年はアンソロジーの編纂や文芸評論、怪談文学研究などの分野で精力的に著述活動を展開。『遠野物語』と怪談の時代』により日本推理作家協会賞(評論部門)受賞。編著書に『なぜ怪談は百年ごとに流行するのか』『幻想文学講義』『幻想文学』インタビュー集成』など。東日本大震災の被災地で語られる怪談や不思議な話についての考察も多い。



### 企画主旨

東日本大震災を契機として、私たちは日常という生活世界のあり方そのものを、また人が生きるということ、生きていくことの意味と理由を問うことに、あらためて一人ひとりが向き合わされることになった。そして、今なおこの根源的な問いかけは私たちに向けて発せられ続けている。

昨年度公開講座が開講されるにあたって、地域共生推進機構長であった佐々木俊三教養学部教授は次のような言葉を寄せている。「私たちもまた、生きる形を問い直し、新しい軌跡を作っていかなければならない。文学は、今を生きる人々の生きる形の模索とならねばならないだろう。震災が機縁となって私たちに考えることを強いたこの問いを前にし、私たちはここに〈震災と文学〉という考える場、生きる形を問う場所を設けたいと思う」と。

幸いこうしたわれわれの思いにご理解をいただき、昨年度は465名という多くの方々のご参加を得ることが出来た。本年度もまた、たくさんの皆様のご参加をお持ち申し上げたい。

阿部重樹(東北学院大学学長室長・地域共生推進機構長)